



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 361

August 2021

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

お知らせ

すでに8月6日に会員の皆様にお送りしました「神戸日独協会のお知らせ」にてご案内しましたが、8月より Stammtisch mit Zoom を始めますので、改めてご案内します。

Stammtisch mit Zoom を始めます

神戸日独協会第3チーム(交流・促進)担当 理事 押尾 愛子

8月から Stammtisch mit Zoom を始めます。

Stammtisch(シュタムティッシュ)とは、ドイツのカフェや居酒屋で常連客が集まるテーブルのことです。コロナ禍で集まらないのに Stammtisch?と思うかもしれませんが、面と向かって集まらないからこそ、Zoom を使って集まりましょうという企画です。

毎月第3土曜日の午前10時~11時、オンライン(Zoom)にて開催します。

神戸日独協会の会員の中には、ドイツでのユニークな経験をお持ちの方が多数おられます。そういう方にご自分の経験をお話しいただいて、会員同士の交流を図りたいと思います。

次の方のお話を予定しています:

8月21日(土) 理事 島多 峰史さん ドイツの日本人学校で教えていました

9月18日(土) 会員 妹尾 行雄さん デュッセルドルフで働いていました

10月16日(土) 会員 久利 将輝さん ドイツで眼鏡のマイスター取得

11月20日(土) 会員 小野 真理さん ドイツのオケでバイオリンを弾いていました

毎回30分ほどのお話の後で、それに関する話題を参加者に発言していただく予定です。

Stammtisch mit Zoom は原則として Zoom でのご参加ですが、神戸日独協会に来てご参加いただくこともできます。人数に制限がありますので、事前に事務室へご連絡ください。

参加は無料で自由参加です。多数のご参加、お待ちしております。

また、今後この方の話を聞きたいとか、こんな話を聞きたいというご希望がありましたら、神戸日独協会にご連絡ください。

ZoomによるStammtisch参加について

- ・Zoomは、ネット環境、カメラマイク付きのパソコンがあれば、特に準備は不要で接続します。
- ・開催者(神戸日独協会)(=「ホスト」)がメール等でお知らせするミーティングURLをクリックすると、Zoomのシステムがブラウザ上でダウンロードされ、ミーティング(Stammtisch)に参加できるという形です(初回は少し時間がかかるかもしれません)。
- ・Zoomによるオンライン授業参加には、ご自宅でのネット環境、カメラマイク付きのパソコンがあれば可能です。タブレットやスマートフォンでも可能ですがWi-Fi接続環境を推奨します(カメラマイクつきでないパソコンの場合には、カメラとマイクの別途取り付けが必要となります)。

Zoomの登録について

- ・お知らせするリンクをクリックするか、ブラウザで開いてください。自動的にミーティング(Stammtisch)に参加となります。
- ・すでにZoomアカウントをお持ちの方は、Zoomを開いて「ミーティングに参加」ボタンを押し、ミーティングIDとパスコードを入力してください。

神戸日独協会 Stammtisch mit ZOOM

<https://us02web.zoom.us/j/85366355191?pwd=N05kST11b1VhYkNqc2kvQmd5VjJPQT09>

ミーティングID : 853 6635 5191

パスコード : 393924

会員の広場

ウイルス感染防止のために協会本来の行事・催しが出来ないのも、会員相互の交流の機会を持つことが出来ずにいます。このコーナーは、会報を通して交流していただくための「広場」です。ご投稿をお待ちしています。

(投稿規定: MSPゴシック12ポ、A4 1枚程度まで (多くの方に投稿していただくために、字数を厳守してください)、添付にて毎月第二月曜まで事務局へ)

ドイツ語世界との出会い

会員 山崎 竜司

皆様こんにちは、会員の山崎竜司です。この度職場が変わり、神戸市から山形県鶴岡市へ転居したため、約5年間通っていた日独協会のドイツ語講座を一旦中断することになりました。短い間でしたが、本格的にドイツ語を学び、そしてドイツ語を通じて様々な方々と交流し、大変濃密で充実した時間を過ごさせていただきました。この場を借りて神戸日独協会との出会いと受講した講義について紹介したいと思います。

私は精神科の医師をしていますが、精神医学ではドイツ語の用語が現在も結構残っています。その理由の一つにクレペリンというドイツの精神科医がいます。彼が19世紀末にドイツ語で書いた教科書は現在の精神医学の基礎を作り、今なお精神障害の診断に大きな影響を残しています。

北杜夫の小説「楡家の人々」にも主人公がドイツの大学へ行き、憧れのクレペリンに出会う場面があります。ドイツ語を勉強していつかはクレペリンの教科書を原文で読んでみたいなど考えていた所、神戸日独協会の講座を見つけてドイツ語講座に通い始めました。

講読クラスLN(火曜18:10-19:30)での出会い

Deutsche Welleというドイツの新聞記事(インターネット版)を精読する講座です。記事の内容はドイツ国内の政治や歴史、ブレグジット、アメリカ大統領選挙、移民問題、環境問題、メルケル首相の動向、EU選挙、ドイツ語版今年の流行語、ドイツで報道される日本や世界のニュース等々でした。現在のコロナ禍では当然コロナに関する記事も沢山読みました。どの記事もまとめ方、問題意識、分析、批評等の質が高く読み応えがあります。記事の読解を通して、ドイツにおける人権意識や負の歴史に対する態度など普遍的に共有されるべき土台のようなものに触れた気がします。授業で柘田先生の指導の下、一文一文、一語一語丁寧に訳を行います。文法はもちろん辞書の使い方や一つ一つの語に向かう姿勢、ドイツ語の時代による変化など様々な点で興味深く、ドイツ語読解のイロハと実践を学べました。この講座の体験はドイツ語以外のヨーロッパ言語の習得や読解にも非常に役に立つと思いました。また年齢やドイツ語歴が様々な受講生の方々と意見を交わしながらの講座の雰囲気はとても刺激的でした。ドイツの流行語は毎年読んでいる恒例の記事で、深刻、真面目な内容の記事ばかりではなく楽しみながらの読解も沢山あります。非常に力の付く講座だと思うので皆様にお勧めしたいです。

中高ドイツ語(MHD)を読む会(毎月一回有志による集まり)での出会い

2年前に会員の合田さんが提案し、柘田先生が講義を引き受けてくれて始まった有志による集まりです。中高ドイツ語(Mittelhochdeutsch)はおおよそ1050年から1350年に至る中世時代のドイツ語のことです。中高ドイツ語の「中」は、古高ドイツ語(Althochdeutsch)と新高ドイツ語(Neuhochdeutsch)に挟まれた時代区分を表し、中高ドイツ語の「高」は、中部ドイツ語(Mitteldeutsch)と上部ドイツ語(Oberdeutsch)を含む地域を指し、北部の低地ドイツ語(Niederdeutsch)に対比される空間的な概念です。ドイツ語で書かれた中高ドイツ語の教科書と柘田先生が用意された補足プリントを使いながら、ドイツ語の教科書の読解と柘田先生による講義を受けるものです。文字、発音、単語、格変化などの文法、語の意味・用法など現在のドイツ語とは異なるところが数多くありとても自分で勉強できるものではありませんが、この会に参加することで少しずつ中高ドイツ語の成り立ちが理解できるようになってきました。日頃の生活や思考を離れて、1000年近く前のドイツ語という時間的にも空間的にも遠く離れた言語を毎月3時間みっちり学ぶという経験はとても貴重なものでした。現在は「ニーベルンゲンの歌」を読み進めています。有志メンバーも徐々に増えてドイツ語の輪が広がっているのも嬉しいことです。コロナ禍では難しくなっていますが、勉強のあとのビールと交流会も楽しみの一つでした。興味のある方はぜひぜひ問い合わせせてみて下さい。

最後に、柘田先生御夫妻、講座の受講生の方達、MHDの会の皆様、暖かく送り出してください、誠にありがとうございました。オンラインや神戸に行く時などまたお目にかかることを楽しみにしています。皆様のご健康と神戸日独協会のますますのご発展を心より祈願致しております。

Verbrecher, Glücksritter und Impfmüde

Andrea Kehle-Jandl

Nach einem Jahr Corona zeigt sich eine helle und eine dunkle Seite der Pandemie: die Verbrechensstatistik. Wohnungseinbrüche sind stark zurückgegangen sowie der Handtaschenraub in den Fußgängerzonen. Das ist einleuchtend, denn viele Leute waren zuhause und nachts gab es Ausgangssperren. Dazu war die Mobilität internationaler Banden durch die Grenzkontrollen eingeschränkt. In den Fußgängerzonen war auch niemand, dem man einen Geldbeutel oder eine Handtasche hätte stehlen können, da die Geschäfte wochenlang geschlossen waren.

Statt in den Fußgängerzonen waren die Leute im Internet unterwegs. Dort lauerten dann die Gefahren. Straftaten durch Betrug im Internet sind folglich angestiegen. Was für den einen Kriminellen ein Nachteil ist, ist für den anderen ein Vorteil. Die Verbrecher ruhen nicht.

Auch Glücksritter¹ hatten ihr Chance. Es gab nie dagewesene Straftaten wie „Maskenbetrug“ oder „Impfpassfälschung“. „Maskenbetrug“ bedeutet minderwertige Masken in Umlauf zu bringen oder Provisionen für die Beschaffung von Masken zu kassieren.

Um möglichst schnell viele Masken zur Verfügung zu haben, hatte das Gesundheitsministerium zu Beginn der Pandemie allen interessierten Lieferanten ein unwiderstehliches Angebot gemacht: alle Maskenlieferungen anzunehmen. Es wurde in China bestellt was nur ging. Ein paar Politiker hatten „Beziehungen“. Im Lieferpreis für die Masken war dann die Provision enthalten. Das kam nachträglich an die Öffentlichkeit. Zwei Bundestagsabgeordnete mussten von ihren Ämtern zurücktreten. Sich in einer derartigen nationalen Notlage zu bereichern, das ging gar nicht, auch wenn Provisionen bei Vermittlung von Geschäften üblich und erlaubt sind.

Die Maskenlieferungen enthielten teilweise auch minderwertige Ware. Da die Zeit für die Warenprüfung fehlte, kamen auch diese Masken in Umlauf. Jetzt lagern noch irgendwo Überschüsse an hoch- und minderwertigen Masken, die irgendwann das Verfalldatum erreichen und entsorgt werden müssen. Händler sitzen auf nicht abgenommenen Bestellungen und wollen gegen die Regierung klagen. Es geht um rund eine Milliarde Euro. Der Bundesrechnungshof hat die Art und Weise der Maskenbeschaffung durch das Gesundheitsministerium gerügt. Bis die Gerichte jedoch die Klagen entschieden haben, ist eine neue Regierung im Amt.

Verbrechen im kleinen Stil sind Impfpassfälschungen. Der gelbe Impfpass kann wie jedes Dokument gefälscht werden. Ein Arzt könnte auch eine Impfung attestieren, die nicht erfolgt ist. Neben dem Datum ist ein Aufkleber mit der Chargen-Nummer, insofern könnte bei entsprechender Recherche eine Fälschung identifiziert werden.

Neben den Straftaten gibt es noch Ordnungswidrigkeiten, für die ein Bußgeld² zu zahlen ist: die Ausgangssperre nicht einhalten, Partys in der Wohnung mit zu vielen Leute feiern, bei Demonstrationen keine Maske tragen oder keinen Abstand halten – Den Katalog an möglichen Bußgeldern hat durch Corona an Umfang gewonnen.

Die Einordnung von Impfschwänzern³ ist noch umstritten. Neuerdings werden Impftermine geschwänzt. Es wird diskutiert ob Impfschwänzer mit einem Bußgeld belegt werden. Beobachtungen zeigen eine gewisse Impfmüdigkeit. Die angestrebte Herdenimmunität würde dann bis zum Herbst nicht erreicht. (Im Bundesland Baden-Württemberg sind rund 40% der Bevölkerung vollständig geimpft.)

Wenn schon das Oktoberfest ausfällt, vielleicht gibt es dann Impfung mit Freibier⁴.

Wörterklärungen:

Glücksritter¹ : Leute, die die Gelegenheit nutzen, um zu schnellem Geld zu kommen

Bußgeld² oder Ordnungsgeld ist zu zahlen, wenn man eine Vorschrift nicht beachtet hat
der z.B. zu schnell Auto gefahren ist.

einen Termin schwänzen³ : nicht hingehen. Kinder schwänzen die Schule.

Freibier⁴ : Bier oder andere Getränke werden kostenlos ausgeschrieben um Besucher anzulocken

(8.7.2021)

犯罪者、投機家、そして接種疲れ

会員 アンドレア ケーレ＝ヤンドル

コロナの年が一年経って、パンデミックの明るい面と暗い面が現れています。それは犯罪統計のことです。

空き巣ねらいはひどく減っていますし、歩行者天国でのひったくりも同様です。これは納得のゆくことです。というのも多くの人々が在宅していましたし、夜には外出禁止となっていたからです。それに加えて、国際的な犯罪集団の移動は国境検問によって制限されていました。歩行者天国でも財布やハンドバッグを盗まれたかもしれないような人は誰もいませんでした。これも、店が何週間も閉まっていたからです。

歩行者天国へ出かける代わりに人々はインターネット上で出かけていました。インターネットではそのような場合危険が潜んでいるので、インターネットにおける詐欺による犯罪行為が増加しました。一方の犯罪者にとって不利なことは、他方の犯罪者にとって有利なことなのです。犯罪者達は休んだりしないのです。

投機家¹にもチャンスがありました。「マスク詐欺」や「接種パスポート偽造」のようなこれまで決して存在していなかった犯罪行為が起きました。「マスク詐欺」というのは、粗悪なマスクを流通させること、あるいはマスクの調達にかかる手数料を徴収することです。

できるだけ早くたくさんマスクを自由に使用できるように、厚生省はパンデミックの初期に、マスク供給に関心のあるすべての納入業者達にやむにやまれぬ申し出をしてしまったのです。どん

なマスクであれすべてのマスクの納入を受け入れると。ただ売れるだけのものが中国で注文されました。「縁故関係」を持っている政治家が数人いました。こうしてマスクの納入価格には手数料が含まれることになったのです。このことは後になって明るみに出ました。二人の連邦議会議員が職を辞せざるを得なくなりました。このような国家的な苦境にあって私腹を肥やすこと、それは絶対にだめです。たとえ商いによる仲介の手数料が慣例であって、許されているとしても。

マスクの納入には部分的には質の悪い商品も含まれていました。検品の時間が不足していたために、このようなマスクも流通してしまったのです。今でもまだどこかに質の良いマスクや質の悪いマスクの余りがストックされています。これらのマスクはいつか使用期限がきて、ゴミとして処理されるに違いありません。販売できない商品が山積みになった小売商は政府に対して訴えを起こそうとしています。その損失の約10億ユーロが問題となっているのです。連邦会計検査院は、厚生省のマスク調達の方法を咎めました。しかし裁判所がこれらの訴訟に判決を下すまでには、新しい政府が職に就いているでしょう。

スケールの小さな犯罪は接種パスポート偽造です。黄色の接種パスポートは、あらゆる証明書と同じように偽造されうるものです。医師が実際には行われていない接種を証明することもありうる話です。接種した日付のほかに、接種割り当て番号の記されているステッカーが添付されています。その限りではふさわしい調査をすれば偽造が確認されることでしょう。

犯罪行為のほかに過料²を払わなくてはならない秩序違反も起きています。外出禁止令を守らないこと、余りにもたくさんの人と住居でパーティを行うこと、デモの時にマスクをつけず人との距離を取らないこと — 起こりうる過料の一覧は、コロナによって広がりを増したのです。

接種をさぼっている人³を接種に組み込むことについてはまだ議論が分かれています。最近、接種の予約が無断でキャンセルされます。接種をさぼった人に過料を課すかどうかということが議論されています。いろいろな観察結果によるとある種の接種疲れが見られます。このようなことでは目指されている集団免疫は秋までには間に合わないでしょう(バーデン・ヴュルテンベルク州では人口の約40%が完全に接種を完了しています)。

オクトーバーフェストが中止になった代わりに、ひよっとしたら無料ビール⁴付きの接種が起こるかもしれません。

単語解説

- 1 投機家、一攫千金を狙う者 (Glücksritter) : 短期間に金持ちになるためにチャンスを使う人々。
- 2 過料 (Bussgeld) : または秩序違反金 (Ordnungsgeld)。規則を守らなかつたり、あるいはたとえば自動車のスピードを出し過ぎたときに支払われる。
- 3 予定の日時をさぼる (schwänzen) : = 行かない。Die Kinder schwänzen die Schule. 子供が学校をさぼる
- 4 無料ビール (Freibier) : 客を誘き寄せるためにビールや他の飲み物が無料で供される。

(会員 大崎(湯浅)恵理子訳)

☆ドイツのボーデン湖畔のフリードリヒスハーフェン Friedrichshafen にお住いの会員 Andrea Kehle-Jandl さんから、ドイツでのコロナ禍での諸事情を知ることのできる時宜を得たご寄稿をいただきました。ありがとうございました。

ドイツ語談話室

第203回ドイツ語談話室

日 時 : 2021年7月17日(土) 14-16時

場 所 : 神戸日独協会会議室

テーマ : コロナ渦での私の生活

新型コロナウイルス感染予防の為に外出の自粛要請が続き、半年ぶりのドイツ語談話室開催となった。今回の司会は、井川伸子さんが担当され、これまでの、三密を避ける生活の話がされた。密閉、密集、密接、を避けるである。自身の生活としては、いつも通りの普通の生活であり、近くの山へのハイキングもいつも通りしている。ただ、近所の大学では、授業がリモートで行われて見かける学生さんの姿は少ない。

—いつも通り、NHK のドイツ語講座を聴き続けている。これはとても安上がりで且つとても優れた勉強法である。神戸日独協会の会報にも、コロナ禍の生活について寄稿した。

—コロナ感染予防でよく叫ばれるスローガンで面白い発見をした。それは、いつも三つの事をするよう呼びかけていることである。人々は、三つまでは記憶できる、との基本的な理解に基づいている。

—ワクチン接種がオールマイティーのように宣伝されているが、必ずしもそうではないと思う。接種をして亡くなった人も結構ある。要は、自身で体を守れるようにすることが重要である。

—スポーツジムで、ヨガ教室をはじめ、多くのプログラムに参加している。参加者は少し減っているが、多くの方がトレーニングを続けている。積極的なエネルギー溢れる精神と行動が肝要である。

—旅行業界で働いているので現在はほとんど仕事がなく、他の業界での仕事をパートタイム的にやっている。また、母親が怪我をしたため、家事の手助けにも行っている。

—家内の病気の為、家事全般を引き受けており、コロナ渦もあり、日常的にとっても忙しくしている。東京オリンピックに関しては、当初より反対であったが、今やまったくやる意味がないと思う。

—コロナ下でも、特に自分の生活が変わったことはない。ただ、生活圏がほぼ神戸市内に限られていて、海外にも国内にも旅行をする計画はない。

—新型コロナに関して、あまりにもネガティブな情報ばかりが溢れ返っている。コロナは、よく知られている病気の一つ、インフルエンザの一種に過ぎない。それだけなのに、メディアは人々に不要な不安ばかりを与えていると思う。

—日本で、今、オリンピックをやる意義は全くない。多くの日本人はそう考えているが、行動していない。行動で示すことが必要だと思う。

※ 次回、8月のドイツ語談話室は、いつもの第3土曜日ではなく、第4土曜(8月28日)になります。

また、ドイツ語談話室200回記念のパーティーを計画していますが、少し先になります。

今後のドイツ語談話室の予定

第204回 2021年8月28日(土) 14-16時 テーマ : 少子化

第205回 2021年9月18日(土) 14-16時 テーマ : 未定

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 203. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit : Samstag 17. Juli, 2021, 14 bis 16 Uhr.

Thema : Mein Leben unter der COVID 19 Pandemie

Wegen der COVID-19 Pandemie hatte die Regierung aufgefordert, keine Versammlungen abzuhalten. Unsere Gesprächsrunde war deswegen von Januar bis zum 17. Juli dieses Jahres eingestellt. Beim Wiederbeginn hatte Frau Nobuko Ikawa die Gesprächsleitung und sprach von den "drei Mitsus", die es zu vermeiden galt. Darunter versteht man erstens abgeschlossene Räume, zweitens dichtes Gedränge und drittens fehlenden Abstand. Das Leben der Gesprächsleiterin verblieb aber normal, wie üblich machte sie Wanderungen in den Bergen der Umgebung. Auffallend war, dass weniger Studentinnen und Studenten auf den Straßen waren, wahrscheinlich weil der Unterricht größtenteils online abgehalten wurde.

Hier einige Stellungnahmen der Teilnehmerinnen und Teilnehmer:

- Ein Teilnehmer hörte wie immer den NHK Radio Deutschkurs. Das ist eine günstige und effektive Methode Deutsch zu lernen. Nebenbei hat er auch einen Beitrag für die Aussendung der JDG-Kobe geschrieben.
- Einem anderen Teilnehmer ist ein interessantes Phänomen aufgefallen. Die Slogans zur Eindämmung der Pandemie bestehen immer aus drei Sätzen. Wahrscheinlich kann man sich bis zu drei Sätzen gut merken.
- Die Regierung propagiert die Schutzimpfung gegen COVID-19. Eine Teilnehmerin glaubt nicht daran, da es Berichte über Todesfälle nach der Impfung gibt. Ihrer Meinung nach ist es wichtig, sich auf Krankheiten gut vorzubereiten.
- Eine Teilnehmerin nimmt an verschiedenen Kursen in einem Sportklub teil, z.B. Joga etc. Es gibt in dem Klub noch immer viele Teilnehmerinnen und Teilnehmer. Für sie sind energisches und positives Auftreten wichtig.
- Eine Teilnehmerin arbeitet bei einem Reiseverein und hat zurzeit wenig zu tun. Deshalb macht sie auch Arbeiten in anderen Bereichen. Da sich ihre Mutter eine Verletzung zugezogen hat, hat sie auch im Haushalt mehr Dinge zu erledigen.
- Ein anderer Teilnehmer ist ebenso sehr im Haushalt beschäftigt, da seine Frau krank ist. Die Situation wurde wegen der COVID-19 Pandemie schlechter. Er war von Anfang an auch gegen die Olympischen Spiele in Tokyo und findet auch jetzt keinen Sinn am Abhalten der Spiele.
- Bei einem anderen Teilnehmer blieb das Leben wie immer. Nur ist sein Lebensraum enger geworden, da er keine Reisen machen kann und er sich somit nur innerhalb von Kobe aufhält.

-Eine Teilnehmerin denkt, dass die Medien die Informationen über COVID-19 überspitzen. Im Grunde ist COVID-19 eine Art Influenza. Man verfügt über genügend Kenntnisse und Erfahrungen diesbezüglich solcher Krankheiten. Die Medien verschärfen oft unnötig die Ängste der Leute.

-Eine Teilnehmerin sieht bei der Mehrheit der Japanerinnen und Japaner eine Ablehnende Haltung gegenüber den Olympischen Spielen in Tokyo. Die Leute müssten stärker in Aktion treten.

* Die nächste Deutsche Gesprächsrunde findet nicht wie gewöhnlich am dritten Samstag, sondern diesmal am vierten Samstag im Monat, also am 28. August, statt. Wir sind auch in der Planung zu einer Feier zum 200-maligen Jubiläum der Deutschen Gesprächsrunde, der Zeitpunkt konnte jedoch noch nicht festgelegt werden.

Nächste Treffen:

Samstag, 28. August 2021, 14 bis 16 Uhr. Thema: Abnehmende Geburtenzahlen

Samstag, 18. September 2021, 14 bis 16 Uhr. (Thema noch nicht festgelegt)

コロナ感染第5波の急拡大と

兵庫県への「緊急事態宣言」発令について

8月に入り兵庫県下ではコロナ感染者数が急上昇し、神戸市及び阪神地域等に8月2日から「まん延防止等重点措置」が実施されていますが、第5波は猛威をふるい8月20日から4度目の「緊急事態宣言」が発令されます。

昨年の春以来たび重なる「緊急事態宣言」と「まん延防止等重点措置」が発令されてきましたが、この度も神戸日独協会では会員の感染予防を第一にこれまでの宣言と措置発令時と同じ措置をとっています。

- ・「ドイツ語講座」と「ドイツ文化教室」はオンラインを原則としますが、クラスの事情により一部は対面授業を併用し、継続開講をします。各クラスの授業形式については事務室へお問い合わせください。
- ・その他の協会の会合等については、原則として自粛をしますが、オンライン等の利用を導入して、感染予防に十二分に配慮の上で、開催可能なものは実施します。
- ・事務室は8月23日より14:00～17:00の開室とします。ご不便をおかけします。時間外の協会へのご連絡等は、留守番電話・ファックス・メールをご利用ください。基本的な予防策として、従来と同様に、三密の回避、マスクの着用、不要不急の外出の自粛につとめて、この緊急事態を無事に乗り切りましょう。

協会からのお願い

コロナ禍が続いていますが、神戸日独協会は新年度より、昨年度のコロナ感染による活動停滞の反省を踏まえて、新たな活動を企画し提案しています。オンラインによるドイツ語特別講座、Stammtisch mit Zoom などです。

会員の皆様から協会活動の企画について、特に下記の点については是非ともご提案・ご意見をいただきたく、お願いをいたします。

- 1 オンラインを活用した今後の活動・催し
- 2 「会報」の特別企画コーナー
- 3 日独交流160周年の記念事業(本年11月下旬開催予定)
- 4 協会の運営・活動一般
- 5 その他

コロナ禍の収束が見通せない現状では、皆様のご希望を反映させた協会活動の実施のためにも、皆様のお声をお寄せください。よろしく願いいたします。
(会長 柘田義一)

事務室からのお知らせ

事務室の開室時間短縮について

コロナ感染第5波が猛威をふるい兵庫県下では感染者数が急拡大し、8月20日から4度目の「緊急事態宣言」が県下に発令されます。協会事務室への来室者及び職員の感染予防のために、**8月23日(月)より 事務室開室の時間を下記のように短縮します。**

平日 14:00～17:00 (週末は閉室)

ご不便をおかけしますが、今次の緊急事態をご理解いただき、閉室時間帯及び外出を自粛されている方は、協会の(留守番)電話・ファックス、メールをご利用ください:

電話・ファックス: 078-230-8150

メールアドレス: info@jdg-kobe.org

平常の開室時間に復帰する際には、協会ホームページ等でご連絡します。

会報印刷・発送ボランティア募集

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の印刷と発送は9月9日(木)を予定しています。お手伝いいただける方は事前に事務室へご連絡下さい

(TEL/FAX 078-230-8150)。

- 印刷: 兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度
発送: 神戸日独協会にて、12:30～